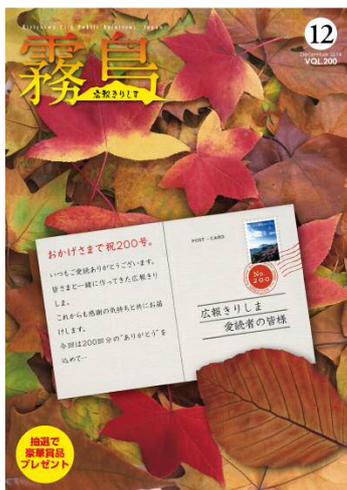


平成26年度鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 特 選 〉



- ① 広報きりしま（平成26年12月号）
- ② 46,000部・12回
- ③ A4判・32ページ
- ④ 秘書広報課



○ 講評

【企画】

● 特集「広報きりしまは必要か」

- ・ 200号を機に自らの存在意義を問う意欲作。広範に取材し、アンケートまで行って、読み応えのある記事に仕上げた。
- ・ 全国広報コンクール特選受賞市の広報担当者、日本広報協会事務局職員のインタビューや市民の声を交え、特集、シリーズごとに広報紙の効果を検証。緊急アンケートを基に若者が求める広報紙像を探ろうと新連載「Link」を開始し、地元ケーブルテレビやFMラジオ局とのクロスメディアによって新たな広報紙の楽しみ方も提案するなど発想が豊か。
- ・ 「広報紙には人と地域を元気にする力がある。あなたの一歩のために『広報きりしま』は必要です」との結論付けに自信がのぞく。

● その他

- ・ 読者への宣伝を狙い、200回記念のプレゼントが当たる全国初の「袋とじ付き広報紙」にも挑戦するなど戦略的だ。
- ・ 「読者の声」や霧島をPRする「絵はがき」に双方向性の広報紙づくりがにじむ。

【文章】

- ・ 特集は21ページまで続き、記事もそこそ長いのだが、小見出しを入れ文章が整理して書かれていることから楽に読める。

【デザイン・レイアウト】

- ・ 見出しやカット、写真、グラフを中央に集めたり、端に分散させたりとレイアウトに変化をつけ、記事をどのように読んでもらうか、よく考えられている。

〈 入 選 〉



- ① 広報たるみず（平成26年11月号）
- ② 8,300部・12回
- ③ A B判・44ページ
- ④ 総務課



○講評

〔企画〕

●特集「勤労感謝の日記念 39のありがとう！&Special Interview」

- ・リレーインタビューは、ユニークで斬新な企画。
- ・2人組39枚の写真を撮るのは大変だったろうが、それだけに市民が多く登場して楽しめる紙面になった。
- ・特集が12ページから21ページまでの構成となっているため、表紙との関連性が弱くなったのがもったいない。

〔文章〕

- ・特集は、それぞれ一言コメントでまとめてあり、テンポよく読めた。

〔デザイン・レイアウト〕

- ・前半は行政発信のNEWSが1ページに2枠ずつ、後半はまちの話題が1ページに4枠ずつと、記事がはっきりと分けられ、それぞれがコンパクトにまとめられ読みやすい。
- ・レイアウトや出来上がりも全体的に安定している。





- ① 広報ひおき（平成26年10月号）
- ② 23,000部・12回
- ③ A4判・20ページ
- ④ 企画課



○講評

【企画】

●特集「それは奇跡から始まる物語」

- ・人口減少に「生」という普遍的なテーマを絡めた力作。
- ・「命」の問題について、さまざまな切り口から取材してあり、深みのある特集に仕上がっている。
- ・少子化、妊娠・出産、不妊治療、「命の教育」まで、行政の支援体制や専門家、生徒の声も交えた構成で読み応えがある。
- ・高齢化社会、介護をテーマとした11月号の「自分らしく紡いでゆく物語」と対という発想も面白い。
- ・「日置市に住んでいること。皆さまに一步考えてもらえる広報を」のコンセプトにも通じている。

●その他

- ・読者アンケートに基づく市民参加の写メール募集は面白い。

【文章】

- ・人口減少社会を日置市に当てはめて考える糸口とし、市の施策、産科医の話、不妊治療の話、次の世代に伝えていく活動、いずれも読み応えがあった。

【デザイン・レイアウト】

- ・特集は、薄紫色の見出しや背景、赤ちゃんのはいはいのシルエットなどで一体感が出ている。
- ・2ページから3ページの赤ちゃんの写真は見開きで使いたかったのだろうが、表紙にもってくればもっと目を引いたのではないか。



広報ひおき 11月号



- ① 広報あいら AIR View (平成26年8月号)
- ② 28,800部・24回
- ③ A4判・24ページ
- ④ 秘書広報課



○講評

【企画】

●特集「クローズアップ『最後まで、責任とって。』」

- ・「フン・尿問題で嫌われ、見捨てられる動物たちを減らしたい」と訴える企画は、「とある野良猫のボヤキ」に始まり、各種データを示して野良猫問題の原因を分析。その上で、動物の愛護と地域の理解、終生飼養の徹底などモラル向上の必要性を指摘し、県動物愛護センターなどの相談窓口も紹介するなど内容が濃い。
- ・動物愛護の問題であると同時に、ご近所付き合いの問題であることがよく分かり、良い取り上げ。

●その他

「今月の始良人」、育児情報「アイラキッズ」、昔の写真シリーズ「時空旅行」など、多くの連載ものが充実している。

【文章】

- ・野良猫問題の対策として、「エサを与えないこと」「不妊・去勢手術が有効なこと」がよく分かるとともに、エサを与える人たちにも配慮して書かれている。
- ・2カ月の子犬を引き取った女性の話でも、この女性の考えが簡潔な文章からよく伝わってきた。

【デザイン・レイアウト】

- ・特集全体で、写真の扱いや配置が良く、記事もすらすら読めた。
- ・全体的にすっきりとしたレイアウトの紙面である。





- ① 市報しづし（平成26年11月号）
- ② 14, 100部・12回
- ③ A4判・44ページ
- ③ 総務課



○講評

【企画】

●特集「農業女子の挑戦！」

- ・農業のさまざまな分野で活躍する女性の生き生きとした姿を紹介する好企画。
- ・行政の支援策の掲載があれば、新規就農の後押しになったのでは。

【文章】

- ・特集の担い手不足の話から農業女子4人の紹介への繋がりが良く、紹介も簡潔で分かりやすい。

【デザイン・レイアウト】

- ・特集は、多くの色を見出しや背景に使っているため、写真とともにごちゃごちゃした感じを受ける。写真配置などレイアウトや色使いにもうひと工夫を。
- ・文芸『志』・季・折・々』は、各号とも写真（志布志の風景写真）との組み合わせが良い。

【その他】

- ・小学生が書いた題字や文芸『志』・季・折・々』、「市民のひろば」など市民を多く登場させる工夫に好感。



- ① 広報あくね（平成26年2月号）
- ② 10, 200部・12回
- ③ A4判・22ページ
- ③ 総務課



○講評

【企画】

- ・特集「脇本山田楽伝承活動30周年」は、取材に1年間かけたというだけあって、担当者のこだわり、思い入れが伝わる、読み応えがある力作。

【文章】

- ・特集は、指導者、第1期生、校長などが登場して、伝統行事を守っていく大切さは伝わってくる。しかし、肝心の山田楽がどんな踊りで、どのような由来があるのかがよくわからない。

【デザイン・レイアウト】

- ・特集は、「脇本山田楽伝承活動30周年」のカットが各ページ右上にあり、特集の統一性を出している。

【その他】

- ・「読者のお便り紹介 阿っくん」や「フレスマ+アクネの元気者」、市内の児童生徒の題字は「一人ひとりの市民が主役」のコンセプトが表れている。